



2021年11月07日の宗祖日蓮大聖人御大会法要の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について

住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

自縄自縛(じじょうじばく)という言葉がある。自分のことばや行動のために身動きできず苦しむことである。仏法では、悪業の因縁によって三界六道の世界に生まれ、常に苦悩することを「生死」(しじょう)と説く。逃れようとして、もがけばもがくほどその強さと深さは増す、まさに自縄自縛である。大聖人は、生死の大海を渡るには妙法蓮華經の船でなければ叶わない、と仰せになった。(御書1555頁)この大船は、大聖人の大慈悲によって私たちの眼前に用意されているにも係わらず、私たちは自分の我意我見にとらわれて、小舟で大海の大荒波にその身をおき難破する。生死煩惱の縄を切り、苦しみの束縛を断つには「妙の一字の智剣」を持つしかない。(御書1759頁)常に素直な心持ちで、仏心を感じとれる人は乗船の切符を手にする。この船に多くの人を導こう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その16)

前号に続き、昭和53年11月7日、池田会長(当時)は「これまで、いろいろな問題について行き過ぎがあり、宗内をお騒がせし、また、その收拾にあたって、不本意ながら十分な手を尽くせなかったことは、総講頭の立場にある身として、この席で、深くおわびいたします」と反省の意を述べた。このように「11・7」とは、それまでの学会の行き方を、全国の宗門僧侶の前で、正直に反省懺悔したものであった。「6・30」、「11・7」において収束されるはずの当時の問題は、昭和54年に入って、逆に思わぬ方向へ展開していった。学会のある大幹部によって、公然と宗門批判がなされる事態がおき、これによって、いよいよ大きな問題となつていったのである。宗門僧侶や法華講連合会などから、池田氏の責任を問う声が強まるに発展した。(次回は池田氏の勇退と辞任)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(渡りに船について)

今の時代、「渡りに船」といえば、水を渡る際に都合よく船がある。必要なものや望ましい状態が都合よくそろふことに驚える。出典は法華經にあり「子の母を得たるが如く、渡りに船を得たるが如く」からなり、妙法蓮華經への帰命により、一切の苦、病苦を離れ、一切の三世の悪業による苦しみの縛りから解放されることを説くものである。向こう岸を彼岸、こちら側を此岸という。此岸は、生老病死の苦悩に満ちた迷いの世界であり、彼岸は悟りの地、成仏涅槃の境界に驚えるのである。まったく異なる世界を結ぶためには、船がなければ渡ることはできない。日蓮大聖人は、仏教という船にも大小・勝劣・浅深があること、真実の大乗の船は法華經に尽きる法理を説く。そして彼岸は別世界にあるのではなく、生きる現実世界にこそ仏界の境地があると。お待ちしております。

法遍寺 から大切な 皆様へ

2021年12月1日

日蓮正宗 年間方針

宗祖日蓮大聖人 御聖誕800年の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

① 日々勤行・唱題の実践

功德の源泉

一家和樂の信心

② 折伏実践こそ最善の報恩行

御命題達成

誓願成就

③ 寺院参詣と登山で人材育成

無始の罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料